説明を、受講者が試す一歩へ。

2021年5月28日発表｜当時の実践から、講師自身の関わりを組み立てます。



内容は伝わった。
次の仕事でも
使ってもらうには。

研修後に任せる
一つの仕事から、
練習を考える。

教える内容と、
本人が試すことを
つなぎます。

人物場面は、使い方を伝えるための説明図です。

受講者の過程に、講師の関わりを合わせる。

応用行動分析学にもとづく実験結果を踏まえ、当時のプログラムで整理した関わりです。

	受講者の側から見た過程		講師が用意する関わり
01	講師の話を聴きたくなる	→	伝わるように伝える
02	自分の関わりの不足に気づく	→	問いかけ、一緒に考える
03	仕事で試したくなる	→	勘所を伝え、動機づける
04	抱えている問題が見える	→	目指す状態の例を見せる
05	問題の解決に取り組める	→	はじめの一歩を示す

いまの研修では、受講者がどこで止まり、次に何を使えると進めるでしょう。

講師も試し、自分の研修へ組み直す。

最初の三つのステップに関する14個の方法を、効果と背景とともに実際に試す構成でした。

01

14の方法を試す

伝え方、問いかけ、
勘所の伝え方を、
実際にやってみる。

02

関わりを振り返る

自分のやり方の
どこに違いがあったか。
次に使いたい方法を
捉える。

03

担当する研修へ

直近に担当する研修を
題材に、講師自身の
具体的な行動と
思考を設計する。

→ →

受講者のできることを増やすために、方法を選び、試し、整える。

伝える内容だけでなく、その場で試す一部分と、職場で使う場面まで考えます。

本人が、見比べて確かめる時間をつくる。

以下は、使い方を伝えるために組み立てた説明用の例です。



手順を説明した後、
別の発注書で
試してもらう。

**どの欄を、何と
見比べたか。**

必要な見本や説明を
補い、もう一度
試せるようにする。

職場の最初の一件では、使う時間・情報・相談先も一緒にそろえます。

研修・職場実践・振り返りを、一続きへ。

「3回の研修を、仕事で使える実践につなぐ。」の18ページガイドへ進めます。

受講者が繰り返し経験する、一つの仕事場面を選びます。

研修で学ぶ・試す

本人が使う見本と、
試す課題を用意する。

→

職場で使う

仕事・時間・情報と、
相談先を用意する。

→

記録を持ち寄る

できたこと、迷ったこと、
役立った支援を比べる。

3回は、現在の研修を考える設計モデルです。

回数や日程、職場の支援は、ご自身の仕事と研修の条件に合わせて考えられます。

18ページのガイドで、一つの仕事場面から考える →

試す一歩を、仕事で使う機会につなぐ。

講師の関わりも、受講者が実際に試したことと、その後の仕事から整えます。

繰り返す状況に目を向ける

Lallyら（2010）は、飲食・活動など本人が選んだ日常行動を、同じ状況で毎日繰り返す12週間の過程を調べました。

自己報告でみた自動性の増え方には個人差がありました。日常行動の研究を、職場で繰り返す機会や支援を考える手がかりにします。

いま担当する研修を、一つ

受講者が、次に
仕事で使う一場面を
思い浮かべる。

研修中にどの部分を試すか。
職場では、いつ・誰と使うか。
必要な見本や支援を選びます。

まずガイドの図を眺め、近い一場面を選ぶところから始められます。

一次研究：Lallyら（2010）

近い研修例から、企画案を考える →